

全国青年ボランティアセンター ニュースNO3（宮城版） 5月2日

泥かき、物資届け、聞き取り調査

被災者の声にこたえボランティア活動を展開

1日、ボランティアのメンバーは岩沼市、早股、仙台市若林区の三か所にわかれてボランティア活動をおこないました。様子を紹介します。

①家の片づけ、泥だし・泥かき——岩沼市

兵庫のメンバー7人が参加。津波でつかった倉庫の泥だし、片付け。家の前の用水路の泥だし、津波で崩れたブロック塀の片づけの三つの作業をおこないました。震災から約50日。用水路のたまった泥からも悪臭をはなち、スコップですくうと1杯でもかなりの重量でした。畑との敷居となっているブロック塀は、すべて横倒し。それをバケツリレーで、ひとところに集めました。

依頼されたのは、80代のおばあちゃん。息子さん夫婦と住まれているようですが、いまは住めなくて、娘さんのところで生活をされているそうです。ところがその娘さんもご病気。なかなか家のことも手に着かなくて、今日の作業になったそうです。

帰り際には、「本当にありがとうございます」と丁寧にお礼をされ、ブルーシートや缶ビールの箱をいただきました。

②物資配布——岩沼市早股

兵庫の大前さん、宮城のあや子さんと日本共産党の仙南地区委員会の方で、周辺住民への物資配布をおこないました。ブルーシートの上に物資をおき、市議のとハンドマイクでよびかけるとどんどん人が集まり、一袋3kgのお米、150袋があっという間になくなったそうです。

③床下の泥だし——仙台市若林区

参加したのは、兵庫のこうちゃん、ばんちゃん、Nさんとボランティアセンターの林くん。仙台市若林区は、区内を南北に走るバイパスを境に、東側は、津波でほとんどさらわれて、さら地に近い状態になっているそうです。そんななかで、前日に物資配布のときに約束をしてきた方の床下の泥かき、泥だしをおこないました。台所下の保存室の穴から中に入り、床をはいずるように移動しながら、泥をだしていきました。依頼された伯父さんは気さくな方で、阪神淡路大震災の時は、震災から2日後に神戸にかけつけてくれたそうです。

行動後、ボランティアセンターに戻り炊き出しの親ご丼を食べながら感想交流を行いました。「自分なりにできることを一生懸命やっというと思った」「(被災者の方は)困っていることを素直に要望を伝えることができない。どんなことに困っているのかを聞きとっていくボランティアは、今後も重要なんだと思った」という思いが交流されました。

本日は大阪のメンバー14人が到着！ 岩沼(兵庫)と亘理町(大阪)に分かれて行動します。